

渡邊輝道先生の研究業績について

渡邊先生の研究上の主たる専攻分野は、平安時代の和歌文学であります。先生の京都大学へ提出された卒業論文は、『新古今和歌集』についてのものであったとお聞きしておりますので、中世初頭における王朝和歌の一大結集である新古今から、その表現の淵源を求めて、平安時代の和歌文学へと遡って研究領域を拡大してゆかれたものと拝察いたします。

先生の高知大学へのご着任は昭和五十四年四月のことですが、それ以前は、大阪府の公立高校や京都教育大学附属高校にあつて、幾多の俊英の教育にあたられながら、研究を進めておられました。その間に公にされました業績のうち、著書としては『後拾遺和歌集総索引』（共著・昭和五十一年・清文堂）、『古典の文法』・『古典の文法 別記』（共著・昭和五十二年・中央図書出版）があります。前者は、王朝和歌の表現上の転換期に成立した、第四番目の勅撰和歌集に関する基礎資料であります。後者は、高校生対象の文法教科書およびその解説書であります。先生のご研究の成果を踏まえ、かつ現場での教授経験を生かした充実したものです。とりわけ、同別記においては、文法の専門的レベルにわたる記述をし、なおかつ教科書では触れられなかった先生の自説も記述されていて、学術書のレベルにまで達したものとなっています。また、この時期のご論文としては、『枕草子』の解釈や『後拾遺和歌集』撰者藤原通俊の和歌評釈、『万葉集』『古今集』の三句切れ歌の構造比較に関するものがあり、日本の国語辞書の定番ともいえる『日本国語大辞典』（小学館）の項目執筆をなさつたのもこの頃のことです。先生の研究の方法上の特色は、国語学的方法を文学研究に融合させた表現論にあるのですが、そ

これは、国語学国文学兼修の京都大学国語学国文学専攻の学風を承け、さらにそれを発展させて、この時期において既に優れた成果を上げておられると申せましょう。

高知大学ご着任後の先生は、さらに如上の研究を發展させて、数々のご著書・ご論文を發表されました。そのうち代表的な著書を挙げれば、和歌の表現研究としては、『表現学大系各論篇』のうちの『和歌の表現』（共著・教育出版センター・昭和六十一年）、「古今和歌集の表現」を担当執筆）が、平安文学研究の基礎資料としては、『万葉集八代集歌末語索引』（共著・洛文社・昭和五十四年）、『栄花物語 本文と索引』（共著・武蔵野書院・昭和六十と六十二年）などがあります。研究論文について申しますならば、『古今集』『後拾遺集』の表現やさらに広く王朝和歌の「歌語」についてのご論文、『土佐日記』や『大和物語』の作品研究についてのご論文を、次々と公にされました。これらのご業績は、着任後数年にして、高知大学国文学教室運営や学科学部運営の重責を担われることとなり、更にご退官までの数年にわたって、学生部長・人文学部長・学長特別補佐などの全学的な激務をこなしながら成されたものであります。

最近のご業績としては、『日本語文法大辞典』（明治書院・平成十三年三月）の項目執筆がございます。また、昨年の高知大学国語国文学会では、「歌語について」という題目で退官記念講演をなさいましたが、さらに考察を深めて、いずれ王朝和歌の「歌語」についてきちんとした研究のまとめをしたいとおっしゃってられます。末筆ながら、先生のご健康とご研究の更なるご發展を念じあげます。

福 島 尚